




10年、会えていない君たちへ

パパが出て行ってから、もう10年が経ちました。あれからずっと会えない、今はどんなに大きくなっただろう。出ていく時に、まだ小さな二人が足にしがみついて、「パパ！行かないで！」と泣きながら叫んでいた姿を思い出しては、あの時感じた罪悪感と、二人がそれから感じた悲しみを思い、言葉では言い表せない気持ちになります。

「何を今さら、どんな思いだったかも知らないくせに！」。そんな気持ちがあるのかもしれませんが。もしも、この本を読む気持ちにならなったら閉じてもらってもかまいません。いつかまた、開いてもいいかな…….と思ってくれたら。そんな日を待っています。

最後に君たちに会った時、とはサッカーをしたね。高校生でも出来ないようなトラップをした3歳のを見て、思わず「サッカーの才能がある！パパはサッカーの才能は無かったけれど、おまえにはあるから、もしサッカーをし

たいと思っただらやってみなさい」と伝えました。覚えてい
るかいなか……。でも、その後、風の噂でプロサッカー
チームのU15に合格したと聞いた時、嗚咽するくらい泣い
たのを覚えています。最低の父親だったかもしれないけれ
ど、少なくとも、なにかひとつ、に影響を与える言葉を
残せたのだろうか……。と。

そして、。いつも人を想いやり、でも、いつも自分の
ことは我慢をして言えなかった。最後に会った時、おも
ちゃ屋で犬を育てるゲームをじっと見ながら、「欲しい

の?。」という言葉に首を振る姿を見て、どんなにこの子を
我慢させてしまったんだろう……。と思いました。

そんなたった2日の出来事を、ふと煙草を喫う時、一人
でお酒を飲む時、毎日、たった数分かもしれないけれど、1
日も忘れたことはありません。そばにいなかった日々を覆
すようなことは言えないけれど、それでもパパは、お前た
ちを愛していました。





20歳になった君たちへ

パパは35歳で癌になりました。

破天荒な人生を歩んできたから、体にも無理がたたったのかもしれない。いまはまだ45歳だけれど、いつどうなるかわかりません。そして、多くの人——愛する子供も、奥さんからも離れて、自分の求める人生を自分勝手に歩んだパパだけれど、君たちがこれから社会に出て、学校とは違

う厳しさと、そして新しい経験と希望、愛する人との出会いを繰り返し、君たちだけの人生を歩む時、もしも、この本のことを思い出すことがあったら開いてみてほしい。

ずっと、そばにはいなかったけれど、パパはずっと君たちを間違いなく愛していました。そして、も、も、本当にいい子だった。誰に何を否定されても、つらいことがあっても、自分を曲げずに自信を持って、望む人生を歩んでください。



やらずに後悔するくらいなら、つらい経験をしてもらっても突き進むほうが、人生は悔いは残りません。他人に何を言われても、自分の選択を信じて進めば、必ずいつかその道が拓ける瞬間が訪れます。人生というのはそういう風に出てくるのだと、パパは知ることができました。

自分を信じて、自分の心にしたがって強く生きてください。
い。

病気の妻へ

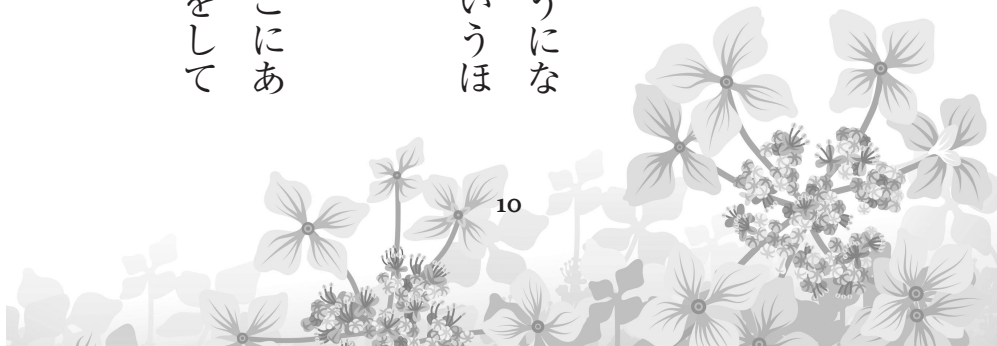
毎朝、目が覚めると、ハッ！と横を見てしまうようになりました。寝た、というより、つい寝てしまったというほうが正しいかもしれません。

毎日、朝目覚めるとそうして、あなたの寝顔がそこにあることを確認し、その寝顔にそっと手を当てて、息をして

いるか、今日も生きているだろうか、そうやって、今日もあなたが生きていることを確認するのです。

そして、毎朝、この世に生まれてきた喜びと、あなたと人生を共にした喜びを感じています。

「モノの言い方が気に入らない」「あんなに高いものを買って……」「もっと家計は節約をなさい」、何かにつけて不満をぶつけていた頃、「私、いつか病気になっちゃうよ……」そう言っていたことが、今こうして現実になる日が来たと



き、この人生で感じたことのない罪悪感と後悔に苛まれ、そしてなにやり、自分が思っているよりもずっと、ずっと、あなたのことを愛していることに気付かされました。

「病気は大切なことに気づかせてくれる」、そんな美談も聞くけれど、いまは綺麗事としか思えません。どんな手段を使っても、どんなにお金がかかったとしても、社会的な地位をすべて失ったとしても、あなたの癌を根治させることしか頭にはないのです。

さまざまな環境や日々起きる出来事の中で、本当に大切なものが何か、本当にしたいことは何か、本当に欲しいものは何か、わからなくなる時があります。いつしかビジネスの魔物に取り憑かれ、会社を大きくしていくことに命を燃やし、ストレスで毎日のように飲み歩き、そして八つ当たりをしていました。

病気になるならオレがなるはずなのに……、なぜ、あなたに背負わせなければならなかったのか。

中略

だからこれから、あなたと残された時間をどれだけ楽しく幸せに生きていくか、108個のアイデアと、その108個のもととなったエピソードを綴っていきます。

そうして、あなたが人生でしたかったこと、そして夫として、してあげたかったけど、してあげられなかったことを全て叶えて、何ひとつ後悔のない人生を過ごしていこう。

1、猫に囲まれた生活

野良猫を見ては、見捨てられずについ餌を与えてしまう君の姿を見て、またそんなことを……、と言いつつ、本当は生きとし生けるもの全てに愛を注いでいたあなたから、本当の愛情というものを学びました。

過去の生い立ちから、ギブアンドテイクの愛情しか知らなかったオレは、いつも人が怖いと思っていました。でも、そんなあなたの姿を見ているうちに、いつしか、人という

生き物は怖くないんだ、信頼していいのだ、と思えるようになりました。

だから、残りの人生はあなたと一緒に、あなたが大好きな猫との生活を実現していこう。

人間に捨てられた猫を保護して、悲しい想いをしてきた猫たちに、「人間は優しいんだよ」「もう怯えて暮らさなくてもいいんだよ」と、猫たちに愛を注いでいきましょう。

田舎の広い家に、保護猫施設を建てて、毎日、そうして暮らしましょう。

中略

最後に108個目です。

人間は生まれ変わると言います。

そして、また今世のように人生の設計をして、どこかで出会い、そして恋をして、夫婦になる。そんな風に願いた



いところですよ。

けれど、どんなに望んでも今世では、俺たちには子供ができませんでした。それも、何かの理由があったのか、そんな設計をしてきたのかもしれない。

また夫婦となり、今度こそは子供を作って……、もし生まれ変われるならば、そんな人生をあなたとまた作ってみたい。

でも、本当は、一度だけでいいから、あなたの子供として生まれてみたかった。次の人生はそんな設計ではどうだろうか。

「いやいや、あなた充分、立派な身体をした赤ちゃんのような人だったよ。もうこりこり……」

あなたはそう言うかもしれないね。

最後の最後まで、この二人の夫婦としての人生は、オレのわがままで始まり、オレのわがままで終わる108のス



トリー。

でも、小さい頃にパパを亡くしたことが、人生でずっと残っていたようだったから、やはり、次の人生はオレがパパで、君が娘でいこう。

今世で、あなたに教えてもらった愛をたくさん注いで君を可愛がり、ずーっと甘やかして、パパから離れることのできない娘にしてしまいかもしれないね。

「そだね、そうしようか」

何か言うたびに、答える君の口ぐせを思い出す。

108個を書き終えた今、朝の6時。君が大好きだった、熱海の海と朝日。

ベッドに戻り、またあなたの顔を見に行きます。

よかった。今日もまだ息をしていたよ。

